

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き、日々のケアにあたっては、毎月のケア会議で検討事項を話し合っている。	理念については来訪者の目にもふれるよう玄関とキッチンに掲示し共有と実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に説明すると共に毎月発行される「ホームだより」の中に「頭と体を元気にする」という理念の一節を掲載し当ホームの支援方針を示している。新入職員が2名おり、ホーム長が日々の支援の中でその方針を具体的に指導し、一日でも早く利用者の信頼が得られるようにしている。また、ベテラン職員も多く、利用者が元気で過ごせるよう工夫を重ね支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の共同作業に必ず参加している。	開設以来2ユニットを2軒分として区費を納め地域の一人として活動している。今年度はコロナの影響を受け取りやめになった地域の行事が多くあるが、年4回の草取りは実施され、ホームとして参加している。また、地域の防災訓練も行われ、ホーム長と職員2名が参加している。合わせて水害の際の地域の避難場所として当ホームの2階が指定されている。地域の「オレンジカフェ」も11月より再開されることになり参加を予定している。更に、12月より歌のボランティアの受け入れも再開する予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	安茂里地区事業所ネットワークに参加も現在は活動停止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議は書面での報告とし、活動内容や介護度・実績、他外国人実習生の様子などをホーム便りを同封し提出している。	新型コロナウイルスの影響を受け書面での開催が続いている。コロナウイルスの中での活動状況や利用状況の報告、行事報告等を書面にし、毎月の「ホームだより」を添え、ご意見用紙と返信用封筒を会議参加メンバーにお届けしている。コロナ感染の落ち着いた今年度最後の3月の運営推進会議は対面で開催したいとの思いを強くしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告にて意見や感想を頂いている。	市高齢者活躍支援課とは事故報告等で連携を取り合っている。市が行った施設運営に関する実地指導にはホーム長が出向き指導を受けている。あんしん(介護)相談員の来訪もコロナの影響で休止という状況が続いているが、相談員から季節の手紙を頂いており再会を楽しみにしている。介護認定更新調査は家族の希望を事前に聞き、ホーム長とケアマネジャーが対応している。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に法人研修で虐待や身体拘束の知識を深めている。3ヶ月に1回検討委員会を開催し日々のケアが虐待や拘束にあたりないか話し合っている。外気温やご利用者の状況により玄関を開錠している。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。離脱傾向の強い利用者があるがきめ細かな所在確認を行い安全確保に繋げている。転倒危惧や居室での放尿確認のため家族と相談し人感センサーを使用している方がいる。また、ベットよりの転落防止を図るべく超低床ベットや低床ベット使用の方が数名いる。3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開き、センサー類の使用について、ベット上での安全の確保、マットレス併用使用による低床ベットの使い方等、具体的な例を上げ話し合い、利用者の安全に繋げている。更に年1回身体拘束の研修会を開き意識を高め拘束のない支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に必ず全員参加している。尊厳が守られてケアが出来ているかケア会議で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学び、必要性を懸念したときは話し合いをし支援をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問の無いようご意見や質問を頂き丁寧に説明をし納得して頂いている。法改正は家族会や郵送で説明し内容によっては同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や生活記録にて様子をお伝えしている。それに関してのご家族のご意見などはケア会議で周知し話し合っている。	話の中で答えられる方については家族の協力も頂きながら出来るだけ要望に沿えるよう取り組んでいる。意思表示の難しい方については家族から聞いた情報を参考に表情や行動から要望を受け止めるよう進めている。家族の面会は窓越しとオンラインでの面会が続いていたが、感染状況が落ち着いてきたことから最近はワクチン2回接種を条件に、熱を測り、行動履歴を書いていたマスク着用で、玄関内での面会を15分を目安に再開している。ホームの様子は毎月発行される「ホームだより」でお知らせし、一人ひとりの様子は担当職員より「生活記録」として細かく報告され家族より喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やケア会議でケアや業務のついて皆で話し合い検討している。施設長との面談もあり意見や要望を言える機会がある。	月1回職員会議とケア会議を行い、職員全体の意思統一を図っている。職員会議では法人からの連絡、各係からの連絡、行事報告、勉強会等を行い、ケア会議では利用者一人ひとりの介護内容の検討を行い、業務内容の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、職員は年間目標を立て自己評価を行い、年2回、施設長による個人面談が行われ評価とモラールアップに繋げている。また、年1回、ストレスチェックも行われ、職員のメンタルケアにも配慮がされている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや自己評価表を活用している。評価を受け自らが課題を設定する事で向上心を持ち業務にあたれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は必ず全員参加出来る様勤務表の調整をしている。経験の浅い職員には業務内に指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のネットワークに参加しているも現在は活動はしていないが、11月下旬からオレンジカフェ再開となる。積極的に参加したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前の聞き取りで不安に思う事や要望を聞き安心した生活を提供している。職員間で共有しサービスを統一している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や事前面談の際にご家族から不安や希望をお聞きしている。ご家族に協力を頂きながらサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援について、ご家族やご本人・主治医・職員から情報を集めている。外部のサービスの導入も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす仲間として意識ケアしている。生活歴や職歴を活かし教え合ったり励ましあったりし信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送している生活記録に日々の暮らしの様子を記載したり、面会や電話で知らせている。写真を載せたホーム便りを毎月送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人などと手紙や電話で関わりの継続が出来ている。面会の支援もしている。	現在はコロナの影響で友人、知人の来訪はお断りしている。携帯電話やホームの電話、FAXで家族とやり取りをされている方が数名いる。年末には職員と共に手書き年賀状を作成し家族に発送する予定である。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でレクや体操・手作業をしている。1日の大半をフロアーに集まり皆で過ごしている。ユニット合同での活動もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節に沿った手紙を送ったり、行事にお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしやすい場となるよう希望や意見を聞いている。ケア会議で実現に向けた話し合いをしている。ご家族の協力が必要な場合もあり、協力頂いている。	日々の生活の中で何をやりたいのか、何を食べたいのか、何を飲みたいのかその都度問い掛けるようにしている。意思表示の難しい方については表情より希望を受け止めるよう心掛けている。お昼寝時や居室で話を1対1で聞き、気づいた事柄については連絡ノートに纏め情報を共有し、日々確認すると共にケア会議で検討し利用者の意向に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や本人・ご家族から聞き取り職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて現状や気づきや検討事項を共有し、話し合いをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちやご家族の要望を踏まえケア会議にて内容の検討をしている。状態に変化あった場合は速やかにプランを変更している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室整理、買い物、誕生日会の準備、日々のアセスメントを行っている。ケア会議で意見を出し合いモニタリングも行き、ケアマネージャーがプランの作成を行っている。家族に対してはケアプランを返信用封筒と共に郵送し、希望は電話にて聞いている。入居時は暫定で1ヶ月間のプランを作成し、様子を見て3ヶ月の基本プラン作成に繋げている。状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動や言動・様子を細やかに記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診や買い物に代行サービスがある。マッサージや歯科・訪問看護が来所している。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	興味のある事や趣味が活かせるようホーム内での活動に工夫している。オレンジカフェや外出実現の支援をしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で適切な医療が受けられている。入所前のかかりつけ医にご家族、または職員が付き添っている。主治医から紹介状で他科受診の支援もしている。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在は入居前からのかかりつけ医利用の方が数名おり、基本的に家族付き添いの受診で対応している。他の多くの利用者はホーム協力医の月2回の往診で対応している。1日当たり1人の往診なのでほとんど毎日協力医の訪問があり職員は心強く感じている。合わせて毎週火曜日には訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携を取り24時間のオンコールが可能となっている。調剤薬局の薬剤師の来訪も継続し行っており、服薬、配薬の指導を頂いている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、歯科衛生士も必要に応じ来訪し口腔ケアの指導も頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外はホーム長に連絡し指示を仰いでいる。状態により看護師に連絡・相談し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紹介状と情報提供書を提供している。医師からの説明時は同席させて頂いている。病院連携室と連絡を取り合い退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、ご利用者の状態を見ながらご家族に説明している。今後予想されることや現状をお伝えしご家族の意見や思い・方向性の確認をしている。状況に応じ、ご家族・医師・ケアマネ・看護師・ホーム長で話し合いを開催している。	重度化や終末期に向けた指針があり、利用契約時に説明している。食事が摂れなくなり終末期に到った時には家族、医師、訪問看護師、ホームで話し合いの場を持ち、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、看取り同意書にサインを頂き看取り支援に入っている。看取り中はホーム職員全員が気持ちを一つにし、本人や家族が穏やかに最期の時を迎えられるように取り組んでいる。特に最後に食べたい物を食べていただくように「刺身」「チョコレート」等、好きだった食べ物を準備し提供している。この2年以内に看取った利用者の中には「ソーマン」が好きな方がおり、亡くなる前日に「どんぶり」1杯のソーマンを食べられ旅立ったという。開設以来14名の看取りを行い、家族からも感謝されている。看取り後は振り返りの時を持ち次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は協力医院とホーム長に連絡し連携している。法人研修で緊急時や事故時の対応を学んでいる。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備している。年2回以上の防災・通報・消火訓練を実施している。その際水防や地震想定訓練もしている。水防事故時はホーム2階が避難場所にもなっている。	6月に夜間想定防災訓練を行い、2階からの出火を想定し1階の夜勤職員が消防署へ通報し、各職員に緊急連絡網を回し、利用者を外へ移動して避難訓練を行い、合わせて水防訓練として1階から2階移動しての避難訓練も行った。また、11月には消防署、防災会社の参加を得て日中想定火災訓練を行い、消防署への通報、水消火器を使った消火訓練、防災機器の点検、利用者全員外へ移動しての避難訓練等を行い、防災への意識を高めている。備蓄として「米」「水」「缶詰」「アルミシート」「カセットコンロ」等が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、ご利用者それぞれに合った介護方法や声かけを実施している。法人研修にてプライバシー保護・接遇を学んでいる。	丁寧な言葉遣いに心掛け敬語を使うことを基本としており、利用者に合わせ親しみを込めたフレンドリーな言葉遣いをする時もある。呼び掛けは基本的に苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、時には、利用者や家族の希望に合わせて「ちゃん」付けでお呼びすることもある。入室の際には「ノックと「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。年1回、プライバシー保護の研修会を行い意識を高め支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いがくみ取れるような関わり方を意識し日々ケアしている。ご利用者それぞれが自己決定ができるような聞き方や声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者優先の考え方で統一した日々の暮らしを支援している。希望や思いをお聞きしそれに沿った生活が提供出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容が来訪し、本人の希望に沿いパーマやヘアカラー・カットをしてもらっている。衣類については選択して頂いている。化粧品はご家族に依頼したり買い物支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり炒めたり・味見や盛り付けを一緒に行っている。毎週食レクを実施し、調理全般をお手伝いして頂いている。時々は弁当や寿司・ハンバーガーを購入提供する事もある。	数名の方が全介助で、他の方は自力で食事が出来る状況である。献立は法人の介護老人保健施設の管理栄養士が立てたものをアレンジして使用している。平日の昼食、夕食については調理専門スタッフが調理し提供している。季節感を加味した献立になっており、お彼岸には「おはぎ」、クリスマスには「チキン」、正月には「祝い膳」等をお出ししている。また、週1回、食事レクレーションを行い、好きな物を全員で作楽しんでる。コロナが収束し以前のように外食が楽しめる時が一日でも早く来ることを望んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者個々に合った食事形態を提供している。体重の変化や食事量・排便の状況に応じて補助食品や水分を提供している。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で磨いた後仕上げ磨きを実施し口腔内のトラブルのチェックをしている。歯科医師からの指示がある場合は職員周知しケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄用品の把握に努め、トイレ誘導の声掛けをしている。排泄用品の検討を実施し費用削減の工夫をしている。オムツの方でもトイレで排便出来る様2人介助で誘導している。	自立の方は若干名で、一部介助の方が半数強、全介助の方が三分の一強という状況である。食事前後の定時の声掛けを基本としトイレにお連れするよう心掛けている。排便については排泄表を用いチェックを行い、2~3日排便がない場合は排便コントロールを行うようにしている。合わせてイオン水やほうじ茶を中心に1日1,200cc以上の水分を摂取し排便促進に繋げている。排尿についても職員が利用者一人ひとりの状況を把握しトイレ誘導を行い、スムーズな排泄に繋げ、ケース記録に残し情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化や症状の理解を職員周知している。日々の体操や水分量・食事内容を検討している。整腸剤や下剤の処方も必要に応じ検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴だが、希望で回数・時間の自由がある。濁り湯等入浴剤にも工夫している。	自立の方は若干名で他の方は何らかの介助が必要な状況となっている。月曜～土曜については毎日入浴が可能で、週2回、入浴を行っている。ほとんどの利用者が自分から進んで入浴することはなく、誘い方に工夫をし入っていただくようにしている。また、入浴剤を使い、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調を見ながら休んで頂いている。気持ち良くベッドに入って頂ける様環境整備し寝具の清潔に心掛けて折る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて薬名・効用・副作用を把握している。誤薬防止にダブルチェック・読み上げ内服を実施している。服薬指導や往診で薬の変更があった場合は申し送りノートに記載し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を元に、手作業を提供したりドライブにお連れしたりしている。得意な料理作りや嗜好品の支援をしている。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、戸外で食事やお茶の時間を設けている。季節に応じた外出を実施している。	外出時は自力歩行の方が数名、手引き・杖・歩行器使用の方が三分の一強、車いす使用の方も三分の一強となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、玄関先で昼食等を楽しんでいる。コロナ禍で外出が難しい状況が続いているが、感染対策を取ったうえで春の桜のお花見、5月には神社へのお参り、秋には紅葉見物にも出掛け、季節感を味わっている。一日でも早くコロナが収束し以前のように外出、外食、買い物ができるようになることを心待ちにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを預かりホームで管理しているが、自由に使える。又、財布を持っているご利用者もあり、ご家族に了解を頂いている。所持金でノートやペンを購入している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、手紙や電話の支援をしている。携帯電話を持っている方もおり自由に使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様天井飾りを工夫している。清潔に心掛け日々の清掃や消毒を実施している。	玄関を入ると季節の飾り付けがされており、現在はクリスマスの飾りが綺麗に施されている。掃除が行き届き清潔感が漂う中、廊下からホールに向けた共用部分の壁にはホームだよりや行事の際の写真が数多く掲示され活動の様子を窺うことができる。また、浴室の窓からは「もみじ」が楽しめ、寛げる雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席でお喋りを楽しんだり、ソファに座り寛ぐ姿見られる。ホーム便りを毎月楽しみに見せて回っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人とご家族で過ごしやすい居室にして頂いている。使い慣れたものを持参いただき居心地良く過ごして頂いている。	入り口ドアには利用者一人ひとりの行事・外出の際に写した写真が飾られている。持ち込みは自由で家族と相談し、使い慣れたテーブル、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等を持ち込み、家族の写真や自分の作品、職員から送られたメッセージカード等に囲まれ、自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるよう貼紙をしたり目印に花を飾ったりしている。出来る事や分かることは職員が把握し作業を提供したり、見守りしている。		